

調査の結果から黒姫山古墳は中世に砦として使われていたことも分かりました。

さば山古墳

黒姫山古墳のそばには6基の小型古墳があったと伝えられています。さば山古墳はその一つで、黒姫山古墳の南側で見つかりました。作られた年代は黒姫山古墳よりも後の時代と考えられ、黒姫山古墳にほうむられていた人の次の長の墓ではないかという説があります。

参考文献・サイト

『史跡 黒姫山古墳』 美原町教育委員会生涯学習課文化財保護室

『堺市立史跡黒姫山古墳歴史の広場』 堺市文化観光局 文化部文化財課

『美原 わが心のふるさと』 美原町

『大阪府全志 巻之四』 井上正雄／著 清文堂

『大阪伝承地誌集成』 三善貞司／編著 清文堂

「黒姫山古墳」(堺市HP)

<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/mcmihara/gaiyou/kurohimeyama/index.html>

堺市立みはら歴史博物館HP

<http://www.mc-mihara.jp>

堺市立美原図書館

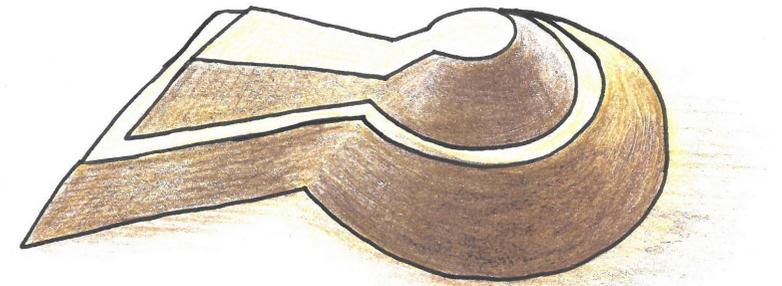
〒587-0002 堺市美原区黒山167-14 電話：369-1166

くろひめやまこふん

黒姫山古墳のひみつ



みはら
美原をしらべよう 1

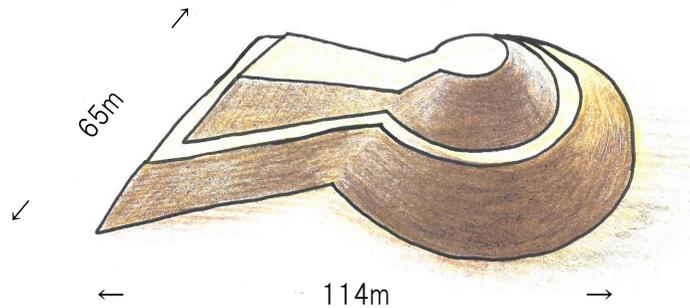


美原区のほぼまんなかにある黒姫山古墳。

いつ、だれがなんのために作ったのでしょうか？

黒姫山古墳

黒姫山古墳の前方後円墳です。大きさは前方（しかくいところ）部のはば65m、後円（まるいところ）の直径が64m、全長114mで、2段になっています。



黒姫山古墳のまわりには濠が掘られ、池のようになっていますが、さらにその外側には土を盛り、古墳をりっぱに見せています（周庭と呼ばれています）。

今は森のように見える黒姫山古墳ですが、できた当時ははにわがならび、斜面には石がしきつめられていました。

この古墳は古墳時代（5世紀の中頃）に、この地で力のあった丹比氏の長のお墓であると考えられています。

この古墳は古くから「墓山」と呼ばれていました。古市古墳群に墓山古墳があり、まぎらわしいため、「黒山」という地名と、黒媛のお墓だという言い伝えに由来して、黒姫山古墳と呼ぶようになりました。

なか

古墳の中はどうなっているの？

古墳を調べると、前方部から竪穴式石室が見つかり、中から24人分の甲冑をはじめ、鉄でできた武具・武器がたくさん見つかりました。

甲冑とは、「よろい」と「かぶと」のことで、戦いのときに体をまもる武具です。よろいは、胴や手足をまもり、かぶとは、頭をまもります。ひとつの古墳から見つかった甲冑の数としては、日本一です。いっしょにうめられていたものからわかるように、丹比氏は天皇の側近に軍事で仕えた氏族でした。

黒姫山古墳から出てきた甲冑は全て「短甲」と呼ばれる、長方形や三角形に切った大きめの鉄の板を皮や鋳でとめたものでした。

後円部にあった石室はこわされて残っていません。しかし、石室のまわりからはにわのかけらが見つかりました。その中には筒形をしたものや盾の形をしたものなど、色々なものがふくまれていました。

